

会 告

第 5 回認定輸血検査技師試験結果

認定輸血検査技師制度協議会

協議会会長 湯浅晋治

審議会会長 大戸 斉

試験委員長 大戸 斉

2001年8月25日～26日（前期）大阪市大医学部と12月22日～23日（後期）京都大医療短大で行われた第5回認定輸血検査技師試験は以下の通りである。

1. 試験の基本方針

- 1) 試験に関わる委員は公正である事を第一義とし、試験内容が決して漏洩することが無いよう細心の注意を払った
 - ・電話でのやり取り
 - ・受験生の研修にタッチしない
 - ・試験委員は他分野の試験内容は互いにわからないようにして準備した
- 2) 試験に関わる委員は公正である事を貫いた
 - ・受験生と評価委員は同じ県内が当たらない組み合わせにした
 - ・実技試験の検体は同水準とした
 - ・いわゆる引っかけ問題は極力排除し、実力が反映されるようにした
- 3) 試験は認定輸血検査技師にふさわしい実力を求めた
 - ・輸血事故を防ぎ、安全な輸血が遂行できる能力を厳正に評価した
 - ・実技試験では細心の検査手技と熟達した検査技術を求めた
 - ・筆答試験では臨床医に適切な輸血情報を提供できる幅広い知識を求めた

2. 試験の概要

受験申請者	235名
欠席・受験辞退	15名
実受験者	220名（前期138名、後期82名）

今回は、実技試験のうち、血液型判定と赤血球抗体解離試験において認定申請者の実力の違いが目立った。氏名の記入ミス、凝集の強度を記載しない、試験管に標別しない、再検を行わない、部分凝集が見出せない、部分凝集をすぐ亜型と思い込む、反応パターンから最も疑われる抗体と否定できない抗体を正しく推定できないなどが主な減点であった。

筆答試験では記述問題、計算問題に答えられない認定申請者が多かった。

1) 筆答試験		前期	後期	昨年
素点	平均	70.0	67.1	68.4
	最高点	85.5	80.4	90.4
	最低点	40.6	44.1	36.9

レポート(カリキュラム委員会)(A:+5、B:+2.5、C:0、D:-2.5、E:-5)加味後の点数

平均	70.4	67.9	70.0
最高点	86.9	82.3	95.4
最低点	40.6	44.1	35.1

2) 実技試験	前期	後期	昨年
平均	48.2	51.8	68.2
最高点	84.7	86.2	92.2
最低点	11.7	6.8	1.7

3. 総合判定

筆答試験と実技試験をともに合格した申請者は84名(合格率38%)であった。

前期受験合格者53名(38%)、後期受験合格者31名(38%)

4. 実技試験採点基準(減点方式、各検体毎に評価)

1) 血液型判定

大減点(-20~-50)

患者氏名の書き間違い、受験番号の記入ミス、血液型判定の誤り

中等度減点(-10~-15)

オモテ試験のみで血液型決定、輸血可能な血液を正しく選択できない、Mixed fieldを追加試験無しで亜型と決定

小減点(-3~-5)

抗体保有患者への適合血選択不十分、Mixed fieldが判定できない、Mixed fieldに対する追加試験を記述できない、オモテ、ウラ不一致検体のコメントが不十分、試験管やスライドに識別標記をしない、試験管に血球を先に入れる、再検を行わない、スライド法で2分以内に判定しない、遠心器回転数の誤選択

微小減点(-1~-2)

血球洗浄をしない、血球濃度が不適正、試薬・検定の滴下数が指示書に従わない、試薬・検体を混和しない、試験管の振り方が不適切、判定時の観察を1本ずつ行う、判定毎に結果記入をしない、スライド法で+と-しか記載しない、Mixed field検体で前医に輸血の問い合わせをしない

2) 赤血球抗体解離同定試験

大減点(-20~-40)

受験番号・氏名の記入忘れ、選択患者の間違い

中等度減点(-10~-15)

最も疑われる抗体の不正解、否定できない抗体の不正解

小減点（ - 3 ~ - 5 ）

患者氏名の記載ミス（誤字・脱字を含む）、凝集の強度が正しく判定できない、+を-と判定、-を+と判定、判定保留・判定不能、溶血が無いのに溶血あり、不要なコメントの記載、凝集パターンの誤り、IgG 感作血球の結果を記載しない、疑われる抗体に過不足

微小減点（ - 1 ）

試験管に患者識別をしない、洗浄時の生食液量（試験管の 8 割程度）が不適切、洗浄噴射ピンを管壁に接触、洗浄時の混和不足、洗浄回数（3 回以上）の不足、最終洗浄後の生食液除去不足、抗グロブリン試薬後の混和を省略、IgG 感作血球による確認試験の省略、注意不足で血球が飛散、パネル血球分注前に番号を記入しない、パネル血球をしよう前に均一な浮遊液にしない、操作手順書に従わない、試薬や器具を与えられた数量で完了できない、設問内容や操作法を手順書で理解できない

3) 血小板抗体検査は概ね良くできていたのいで省略する

平成 13 年度認定輸血検査技師制度施設研修については、多大の御協力を賜り厚く御礼申し上げます。研修受け入れに御協力頂いた施設は以下の通りです。

病院

愛知医科大学附属病院
旭川医科大学附属病院
岩手医科大学附属病院
愛媛大学医学部附属病院
太田総合病院附属太田西ノ内病院
大阪市立大学附属病院
大阪大学医学部附属病院
香川医科大学附属病院
金沢大学医学部附属病院
北里大学病院
京都府立医科大学附属病院
近畿大学医学部附属病院
倉敷中央病院
慶應義塾大学病院
神戸大学医学部附属病院
埼玉医科大学総合医療センター
埼玉医科大学附属病院
埼玉社会保険病院
産業医科大学病院
自治医科大学附属病院
島根医科大学附属病院
清水私市立病院
千葉県がんセンター
千葉大学医学部附属病院
帝京大学医学部附属病院
東京医科歯科大学附属病院
東京医科大学病院
東京女子医科大学病院

東北大学医学部附属病院
獨協医科大学病院
富山医科薬科大学附属病院
長崎市立市民病院
名古屋大学医学部附属病院
新潟大学医学部附属病院
姫路赤十字病院
兵庫医科大学病院
弘前大学医学部附属病院
広島大学医学部附属病院
福岡大学病院
防衛医科大学校病院
北海道大学医学部附属病院三重大学医学部附属病院
宮崎県立延岡病院
山形大学医学部附属病院
横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター
横浜市立大学医学部附属病院

血液センター

愛知県赤十字血液センター
秋田県赤十字血液センター
旭川赤十字血液センター
岩手県赤十字血液センター
愛媛県赤十字血液センター
大阪府赤十字血液センター
岡山県赤十字血液センター
香川県赤十字血液センター
神奈川県赤十字血液センター
京都府赤十字血液センター
高知県赤十字血液センター
埼玉県赤十字血液センター
東京都西赤十字血液センター
東京都東赤十字血液センター
富山県赤十字血液センター
千葉県船橋赤十字血液センター
栃木県赤十字血液センター
長崎県赤十字血液センター
奈良県赤十字血液センター
新潟県赤十字血液センター
日本赤十字社中央血液センター
兵庫県赤十字血液センター
広島県赤十字血液センター
福岡県赤十字血液センター
北海道赤十字血液センター
三重県赤十字血液センター
宮城県赤十字血液センター
宮崎県赤十字血液センター
山口県赤十字血液センター